

My Story 2015

文化学園大学・短期大学部で学び、希望の進路を実現した先輩たちの
“就職活動ストーリー”をご紹介します。

- | | | | |
|---------|--------|---|------------|
| Story 1 | 服装学部 | 服装造形学科
<small>(2016年度より「ファッションクリエイション学科」に名称変更)</small> | 嶋田 桐子さん |
| Story 2 | 服装学部 | 服装社会学科
<small>(2016年度より「ファッション社会学科」に名称変更)</small> | 金子 真怜さん |
| Story 3 | 造形学部 | 生活造形学科
<small>(現:デザイン・造形学科)</small> | 鈴木 真悠子さん |
| Story 4 | 造形学部 | 建築・インテリア学科 | 唐沢 優里さん |
| Story 5 | 現代文化学部 | 国際文化・観光学科 | 清水 真里花さん |
| Story 6 | 現代文化学部 | 国際ファッション文化学科 | ジョー ソンミンさん |
| Story 7 | 現代文化学部 | 応用健康心理学科 | 楠田 千尋さん |
| Story 8 | 短期大学部 | 服装学科
<small>(2016年度より「ファッション学科」に名称変更)</small> | 江田 さつきさん |



My Story 就活 2015

文化学園大学で学び、希望の進路を実現した先輩の
“就職活動ストーリー”をご紹介します。



嶋田 桐子さん

服装学部 服装造形学科[※] ブランド企画コース 4年

(※2016年度より「ファッションクリエイション学科」に名称変更)

東京農業大学第一高等学校出身

内定企業：株式会社ノーリーズ 企画職

事業内容：レディース・メンズ衣料品・服飾雑貨の企画製造・販売

文化学園大学を選んだ理由

高校は、1年生から受験指導の厳しい学校だったので、高校3年生の時には大学に行くべきか考えてしまいました。そして、ファッションが好きだったので、ファッション関係の専門学校をまず漠然と考えました。文化学園大学を知ったきっかけは、文化服装学院（同学校法人の専門学校）の説明会に参加したことでした。大学のオープンキャンパスも開催していて、その時に企画集団FUSE（学生の有志集団）のファッションショーを見て、「やりたいことはこれだ!」と感じました。高校の先生は服飾分野ではなく、経営学部や法学部をすすめてましたが、「大学でやりたいこと＝FUSE」を見つけた私を、「本人が好きなことをやらせたい」と両親もサポートしてくれました。

文化学園大学の学び

高校までは好きでファッション画を描いていましたが、ミシンを使ったことはありませんでした。そんな私が先生の丁寧な指導や応援、友人に教えてもらいながら課題製作を一つずつこなしていきました。いま考えても大変でしたが、一つの課題をやり終えた時の達成感や、今まで出来なかったことが出来るようになっていくことが、本当にうれしかったことを覚えています。授業時間を無駄にしたくなかったので、先生への質問を準備して出席するなど、授業に真剣に取り組み、高校までの勉強では味わえなかった充実感を感じました。

アパレルの企画職をめざす

就職活動前にアパレルの仕事を経験してみたいと思い、(株)ノーリーズでアルバイトをしました。販売のアルバイトで面接を受けたら、ブランド企画に関心があるなら本社の企画アシスタントの仕事をやらないかと言われました。このアルバイト経験やブランド企画コースでの専門的な勉強で、企画の仕事に興味をもちました。就職活動は企画職を中心に、企業はあまり絞り込まず、少しでも興味がある企業にはエントリーし、(株)ノーリーズを含む30社にエントリーシートを提出しました。多くの企業に挑戦することで、資料だけではわからない企業の事業内容や社風までがよく見えるようになりました。企画職の選考にはブランド企画プレゼンテーションの実技試験もありましたが、大学でのプレゼンテーションの経験を生かしてクリアすることが出来ました。

就職相談室のサポート

就職活動スタート時は履歴書も満足に作れないような状況でしたが、就職相談室の方に、まずは履歴書の作成指導からお世話になりました。就職講座の一つ、「就職活動体験報告会」から企業のリストアップ方法を参考にしたり、先輩の就職受験報告書からは、各企業の実技試験の内容や傾向を知ることができ、試験対策に生かすことができました。就職活動スタート時は、書類審査が通らず自信をなくしかけた時もあり、先輩に相談してエントリーシートを見せてもらい、自分のまとめ方とは視点が違っていることに気づきました。これらを参考に一生懸命作り直して就職相談室の方に内容をみてもらったら、すごく褒めてもらえました。この後からは書類審査を通過できるようになったんです。就職活動は一人ではできないと思いました。

文化学園大学でよかった

私はファッションが好きでファッションを仕事にしたいとBUNKAに入学し、好きなことが思う存分勉強できる環境で学ぶことができています。もちろん大変な課題製作はありますが、一つひとつクリアしていくことで自分がどんどん成長していくことが実感できました。大学の授業だけではなく、企画集団FUSEの活動も服作りからファッションショーの制作までを学べる場でした。就職活動の面接でもFUSEの経験をアピールすることができました。

高校生へのメッセージ

ファッションの勉強をめざしている高校生には、強い気持ちを持ってBUNKAに入学して欲しいと思います。本当にファッションを学びたい気持ちが強ければ高いモチベーションを保ち、充実した学生生活が送れると思います。そして、強い気持ちを持っていれば、BUNKAには高校時代と全く違う世界が待っています。あなたのやりたいことが思う存分できる環境があります。

文化学園大学で学び、希望の進路を実現した先輩の
“就職活動ストーリー”をご紹介します。



金子 真怜さん

服装学部 服装社会学科 服飾文化史コース 4年
(※2016年度より「ファッション社会学科」に名称変更)

栃木県立佐野女子高等学校(現:佐野東高等学校)出身

内定企業：株式会社トリート ドレスコーディネーター

事業内容:ウエディングコスチュームの企画・レンタル・販売・輸入

文化学園大学を選んだ理由

高校は家政科で被服を専攻しており、もともとファッションが好きなのもあり、今ある最大限の力を次のステップで生かそうと考え始めました。しかし、具体的にファッションで何かしたいとまでは考えていませんでした。親元を離れ自立したいと考えていた私は、東京の大学を視野に入れ、ファッションを専門的に学べる大学を探していました。そんな時に、ファッション教育の最先端であるBUNKAに出会いました。そして、教育理念と設備・環境のよさに惹かれて入学を志望しました。

文化学園大学の学び

入学した頃はまだ将来のことを具体的に考えられなかった私にとって、1・2年生で基礎的な勉強をして視野を広げる、そしてやりたいことが明確になってくる3・4年生には、興味や関心のあることを掘り下げ専門性に特化した勉強ができるBUNKAの学びは、最適な環境だったと思います。私が3年生から選択した服飾文化史コースでは、オペラや歌舞伎の鑑賞、美術館や博物館の見学など、学外で本物に触れる機会が多くあります。都心の新宿にキャンパスのあるBUNKAならではの学びでした。

4年生と一緒にインターンシップ体験

3年生の前期にブライダル関連企業に絞って4社のインターンシップに参加しました。この時期に参加する学生はほとんどが4年生ですが、自分の性格を理解していたため早く就職活動の準備をしたほうが良いと考え、あえて4年生に交ざり3年生の時に参加しました。さすがに就職活動中の4年生は、質問する内容や礼儀作法も違って、就職活動に向けてまだまだ自分に足りない部分があると気づかされたインターンシップでした。

人気のブライダル企業にエントリー

1年生からアパレル販売のアルバイトを始めて、接客業に興味を持ちました。私にとっては、接客時間が限られるアパレル販売より、半年から一年近くお客様のために仕事をするのできるブライダルに興味を持ち、ブライダル業界を志望しました。就職活動はインターンシップに参加したことがきっかけで、インターンシップ選考枠で1社から内定をいただき、それと併行して内定先の(株)トリートの選考が進みました。(株)トリートは、ブライダル業界の中でも多くの学生がエントリーする人気企業でした。今年の採用人数は10名、面接は10回にもおよぶ厳しさでした。結果的にブライダル関係の2社から内定をいただきましたが、自分が成長できる企業はどちらかを検討し、(株)トリートに決めました。

文化学園大学で身につけたコミュニケーション力

私は高校まで人見知りが激しく、どちらかと言えば内気な性格で、周囲の人たちに自分から発信することも少なく、こんな自分を大学では変えたいと思っていました。アパレル販売のアルバイト経験も含め、ゼミや授業での研究発表やプレゼンテーションを数多く行うことで、自分の考えをアピールすることができるようになりました。就職活動での10回にもおよぶ厳しい面接をクリアできたことは、大学時代の努力の証明なのではないかと思います。卒業後の社会人生活に向けてとても自信がつかまりました。

高校生へのメッセージ

大学でやりたいことや将来の進路を明確に持っている高校生は少ないと思います。私の大学選びは大学の環境に注目しました。今持っている能力や長所を伸ばせる環境があるか、辛くても苦手な部分を克服できる環境があるか。最良の環境があれば、最良の選択肢が待っていると考えました。高校生のみなさんは大学の中身をよく見てください。大学で何を学び、何を身につけたかが一番大事なことです。あなたに相応しい環境を見つけてください。

文化学園大学で学び、希望の進路を実現した先輩の
“就職活動ストーリー”をご紹介します。



鈴木 真悠子さん

造形学部 生活造形学科(現:デザイン・造形学科)

ジュエリー・メタルワークコース※ 4年

(※2016年度入学生より「ジュエリー・メタルデザインコース」に名称変更)

文化学園大学杉並高等学校出身

内定企業：株式会社ピラミッドサイクルニバコレクション 販売職

事業内容: シルバー及びステンレスを中心としたアクセサリーの
企画・製造・販売

文化学園大学を選んだ理由

幼い頃からキラキラ光るネックレスなどのアクセサリーが好きでした。高校でも工芸の授業でリングを作ることがすごく楽しかったので、大学でジュエリーについて本格的に勉強したいと思いました。BUNKAの附属高校出身なのでBUNKAのことはよく知っていました。造形学部生活造形学科には、私の勉強したいジュエリー・メタルワークコースがあり、ジュエリーに関する高度な技術や知識を身につけることができると思い、BUNKAに決めました。

大学での転機

大学に入学した頃は、ジュエリー関係の制作をする仕事に就きたいと漠然と考えていました。大学3年生の時に、実習授業でジュエリー制作中に、なかなかデザインのアイデアが思いつかなかったり、加工する時には糸鋸を上手く使えなかつたりと壁にぶつかってしまいました。そんな時にふと制作が向いてないので疑問を持ちました。でもジュエリーは好きだし、先生や友人の作品を見て、デザインの優れた点を見つけることは得意でした。もしかすると自分には良いものを見分ける力があるのかなと思いました。ジュエリーが好きで、ジュエリーについて人と話すことも大好き。一つひとつのジュエリーが自分の手によってお客様にわたることを想像するとワクワクして、ジュエリー関連の接客が自分の適性に合った仕事だと思うようになりました。

インターンシップで適性を確かめる

大学3年生のインターンシップでは、大学が紹介する受入企業からアクセサリーのパーツ販売会社を選び、商品管理の仕事をして2週間経験しました。事務所で作業をしていると、店頭で私が扱ったチェーンやストーンがお客様にわたっていく様子を伺うことができ、我が子を送り出すような嬉しさを感じました。この時に、ジュエリーという商品を通して接客にかかわりたいとはっきり確認できました。大学の授業で感じた自分の適性に対する疑問が解けたのは、このインターンシップのおかげです。

迷うことなく就職活動へ

就職活動に入る時に迷いはなく、ジュエリー・アクセサリー業界の販売・接客の仕事ターゲットに就職活動を始めました。私の就職活動は他の学生とは少し違っていかかもしれません。自宅の最寄り駅にあるジュエリーショップの製品デザインが好きで、興味があったので会社を調べて、まずはアルバイトの面接を受けました。人事担当の方に、大学卒業後に可能であれば社員として働くことも考えて、まずアルバイトとしていろいろな経験を積ませてほしいとお願いをしました。少し強引な私のお願いを人事担当の方は受け入れてくださり、アルバイトから始めて、その後採用内定をいただきました。私なりにジュエリー業界や企業研究を行い、企業リストを作っていましたが、数社を併行して就職活動するよりは、着実に一社に集中して活動しよう決めていました。

大学で鍛えられたこと

最終的にジュエリー制作の道は選びませんでした。ジュエリー業界で働く人間として必要な技術や知識を3・4年生の実習で身につけました。実際に作ってみることで素材や技法が理解できました。大学で学んだ素材の特性、技法、制作工程などの知識をこれからの仕事に生かしていきたいです。ジュエリー制作の幅広い知識と経験があれば、きっとお客様に説得力のある製品説明やアドバイスができると思っています。将来はジュエリー制作の知識をベースに、お客様のニーズを的確に捉えた商品企画の提案ができるスタッフになりたいと思っています。

高校生へのメッセージ

デザインや造形に興味があるけれど、まだどんな分野に進んでいいのか決められない高校生は多いと思います。BUNKAは自分が何をしたいのか、何に適性があるのかを授業を受けながら考えることができる大学です。私も入学時にはジュエリー制作を希望していましたが、最終的には販売・接客業に進路を変更しました。BUNKAはまだ気づいていない自分の能力を引きだせる大学です。

文化学園大学で学び、希望の進路を実現した先輩の“就職活動ストーリー”をご紹介します。



唐沢 優里 さん

造形学部 建築・インテリア学科

住居デザインコース(現:建築デザインコース) 4年

東京都立富士高等学校出身

内定企業: 東京セキスイハイム株式会社 営業職

事業内容:セキスイハイム・ツーユーホームの販売・設計・施工管理

文化学園大学を選んだ理由

中学生の頃からインテリアが好きだったので、建築の分野に進めばインテリアも含めていろいろなことが勉強できると考えていました。父が家具制作の仕事をしており、同じような仕事がしたいと話をしたところ、父がインテリアや建築の仕事もあるよとアドバイスをしてくれたことにも影響を受けたと思います。大学受験の時も建築の分野に進学するという希望は変わりませんでした。高校3年生で本格的に建築を勉強できる大学を調べ始めて、その時初めて文化学園大学を知りました。一般入試を目指して受験勉強をしていたので、BUNKAを含め建築分野のある大学を受験しました。

文化学園大学に入学して

当時の私は、同系の他大学が多少気になりつつ、BUNKAに入学しました。でもBUNKAに入学してみたら学生の意識がすごく高く、インテリアコーディネーターの資格を絶対に取得するとか、二級建築士を取るための授業を履修する人が多くてびっくりしました。授業の課題に対しても積極的に取り組む友人や仲間に刺激を受けて、私もがんばろうと思いました。入学前から聞いていた実習授業の課題制作は大変でしたが、完成した時の喜びや達成感は大きく、周りのみんなもがんばっているの、お互いに刺激し合いながら課題作品を完成することができたと思います。

インターンシップに参加してわかったこと

インターンシップは2社参加させていただきました。1社は建築デザイン事務所、もう1社は建築設計関連会社でCADを使って図面作成を行う仕事でした。建築・インテリア学科でインターンシップを2社参加する人はBUNKAでは珍しいと思います。第一志望分野の企業で実務経験をする、また分野の異なる企業も経験してみることで2社を比較できたことが良かったと思います。就職活動に向けて貴重な経験になりました。その結果、第一志望の建築デザイン事務所は、実際の現場が想像していたものと違うと感じました。人と対話をしながら家をつくる楽しさがあまり感じられなかったのかもしれない。このことはインターンシップに参加しなければわからなかったと思います。

仕事の進め方にこだわる

大学に入学した頃は、志望理由でもあったインテリアが好きだったので、店舗設計などの空間をつくる仕事がしたいと思っていましたが、就職活動が始まる頃は、店舗設計ではなく住宅をつくる仕事がしたいと思うようになりました。人が生活するための家を、人とコミュニケーションを取りながら作っていくことの楽しさを授業で感じたのが理由です。家づくりの視点で住宅メーカーとリフォーム会社に絞り込み、エントリーを20社、説明会に参加したのが15社、選考を受けたのが、内定をいただいた東京セキスイハイム(株)を含めて5~6社でした。東京セキスイハイム(株)の家づくりは、営業担当がお客様のニーズや家に対する思いを聞きながら基本プランを作り、それを設計部門につないでいく方法を取っています。人と話をしながら家をつくる仕事の進め方が、私の理想に近く魅力を感じました。

就職活動で役立ったこと

就職活動で役立ったことが2つあります。1つ目はインテリアコーディネーターの資格を3年生で取得したことです。就職活動の面接では企業の人事担当の方から、在学中によく取得したねと褒められることが多くて驚きました。1年生の時に受験を考えましたが、まだ自分の知識や経験が伴わず受験はしませんでした。学年が進むにつれて試験内容と大学の授業内容がうまくつながり、3年生で合格できました。2つ目は面接であまり緊張しなかったことです。実習授業では必ず発表会やプレゼンテーションを行うので、自分の考えをまとめたり、要点を整理することができるようになりました。人前でそんなに緊張せず自分の意見を言えるようになったのは、BUNKAの実践型の授業で鍛えられたからだと思います。

高校生へのメッセージ

興味を持っている大学ではどんな勉強ができるのか、どんなサポートを大学がしてくれるのかをじっくりと見ることをお勧めします。私がもし違う大学に行っていたら、きっと大学生活や卒業後の就職も違って、インテリアコーディネーターの資格も果たして取れたかどうかわかりません。高校生のみなさん、がんばってください。

文化学園大学で学び、希望の進路を実現した先輩の
“就職活動ストーリー”をご紹介します。



清水 真里花 さん

現代文化学部 国際文化・観光学科 4年

山梨県立都留高等学校出身

内定企業： オリエンタルホテル 東京ベイ 株式会社ホテルマネジメントジャパン

事業内容：ホテル運営、宿泊・飲食サービス事業

文化学園大学を選んだ理由

高校に入学した頃には、将来はブライダル関係の仕事に就きたいと思っていました。きっかけは幼い頃に出席した結婚式で、その華やかさに憧れたからです。高校2年生から3年生の進路選択では、ブライダルの仕事に就きたくて専門学校への進学を考えていました。しかし、両親や高校の先生から大学進学をすすめられて、ブライダルにこだわらず、大学でもっと広い視野で観光学を学ぶことで、ブライダルはもちろんその関連分野についても将来の役に立つと思うようになりました。そんな時BUNKAに進学した先輩から、大学の資料をもらい、大学生活の話聞く機会があり、希望する観光の勉強ができることや少人数制の教育、インターンシップ制度などが気になり、母親と一緒にオープンキャンパスに参加しました。ファッションやデザインを学ぶ個性豊かな学生や、多くの留学生と一緒に学ぶBUNKAの雰囲気が好きで進学を決めました。

文化学園大学に入学して

1年生から3年生まで小平国際学生会館（学生寮）で寮生活を送り、4年生からは実家から通学をしています。学生寮で過ごした3年間では、同じ学科の同級生は一人でしたが、寮のフロア委員を務めていたので他学科の学生ともたくさん友だちになりました。寮生活は仲間といろいろなことが共有でき、大学から寮に帰っても一人にならないので心強く、学生生活の支えになっていた気がします。学生寮のおかげで初めての一人暮らしやキャンパスにも慣れることができました。大学の授業では、ブライダルや旅行関係で実務経験を持つ先生ならではの業界の詳しい話や、企業の方をお迎えしての講演を聞けたりと、本当に刺激的で将来の仕事につながる勉強ができたと思います。

インターンシップでの貴重な経験

BUNKAを選んだ理由の一つでもあるインターンシップを、大学近くの新宿ワシントンホテルで、約3週間体験しました。新宿という立地もあり外国人のお客が多く、お客様対応には英語が必要ですが、当時の私には英語力が足らず、身振りや手ぶりでコミュニケーションをとることもあり、英語のレベルアップが必要だと感じました。多岐にわたるホテル業務は、経験をしなないとわからないことが多く、卒業後の進路を考える際に、インターンシップでの体験は私にとって貴重な経験となりました。

就職活動に入って

最初はわからないことばかりで、まずは就職活動の経験がある人の話を聞こうと思い、大学の先輩やアルバイト先の他大学の先輩たちの就職活動体験を聞かせてもらいました。話を聞いていくうちに自分なりに就職活動のイメージを膨らませることができました。エントリーシートや履歴書を用意し、友人や先輩からアドバイスをもらい、自分なりに就職活動の準備を進めていきました。合同企業説明会にもできるだけ参加し、ブライダル・ホテル・旅行関連の企業をリストアップしました。内定先のオリエンタルホテル東京ベイを含めて約50社にエントリー、15社に応募しました。オリエンタルホテル東京ベイは以前に宿泊したことがあり、ホテル施設やスタッフの対応も素晴らしく、第一希望の企業でした。そのホテルでブライダル業務を中心にいろいろな経験ができると思うと今からワクワクしています。

文化学園大学でよかったこと

いろいろな個性を持つ学生や、多くの留学生と一緒に学ぶキャンパスの雰囲気に魅力を感じて、BUNKAに入学を決めたわけですが、そんな多様な学生と交流することで、コミュニケーション力が高くなったように思います。入学前は、大学の先生は、中学や高校の先生のように身近にいてくれるイメージはなかったのですが、BUNKAの先生は違いました。担任・副担任制で、学生生活をサポートしてくださる先生方がとても身近で、授業以外でもいろいろなお話ができる存在です。

高校生へのメッセージ

大学生活では、何事も自分で行動して体感することが大切だと思います。高校生みなさんも先輩の話がたくさん聞いて、実際に大学を見ることが大切です。私は、特に先生や学生同士の関係や環境を重視しました。文化祭でダンス部のパフォーマンスを見に行った時に、初対面の私に親切にダンスの話や大学のことを教えてくれ、こんな先輩がいる大学なら間違いないと思ったのです。入学後にはダンス部に入部し、3年生では部長も務めました。高校生みなさんもBUNKAで素敵な出会いを見つけることができると思います。

文化学園大学で学び、希望の進路を実現した先輩の
“就職活動ストーリー”をご紹介します。



ジョー ソンミン さん

現代文化学部 国際ファッション文化学科

プロデューサー・ジャーナリストコース 4年

韓国[ソウル] 清明(チョンミン)高等学校出身

内定企業：株式会社アトリエサンク 企画職

事業内容：眼鏡フレーム、サングラスの企画・デザイン・輸出入

文化学園大学を選んだ理由

高校卒業後、韓国の大学に進学してグラフィックデザインを学んでいましたが、韓国には2年間の兵役義務があるため、私は大学3年生の時に休学して兵役に行きました。兵役を終えて復学する前に初めて日本を旅行した際、東京の美術大学に留学中だった友人のお姉さんの卒業制作展を見に行き、学生たちがすごく自由に勉強をしている姿に憧れました。そのことがきっかけになり韓国の大学には戻らず、日本への留学を決めたのです。BUNKAを選んだのは、国際ファッション文化学科のプロデューサー・ジャーナリストコースが決め手でした。韓国での大学時代に世の中にはさまざまな能力を持っている人がいることを知り、そういう人たちが集まればもっと面白いことができるのではと思いました。そのためにはどんな勉強をすればよいのかと考え、演出・企画を学べるプロデューサー・ジャーナリストコースを見つけました。

大学でがんばったこと

とにかく幅広く勉強しました。面白そうと感じた科目は勉強してみる、自分にとって必要かどうかは後で考えようと思っていました。国際ファッション文化学科は、縫製の技術を学ぶ授業が充実しています。今まで服づくりの経験はありませんでしたが、平面の生地から立体の服を作り上げることは、それまで経験したモノづくりとは違った面白さがありました。実際にやってみないことには評価や判断はできません。社会人になると時間も限られるし、このような勉強方法は、大学時代だからこそできるのだと思います。大学の勉強だけではなく、友人と学外でのイベント企画などにも挑戦しました。いろいろ失敗もありましたが、今思えばそれもよい経験になりました。

卒業後の進路に向けて

BUNKAに入学した頃は、多様な能力を持っている人の集団をつくり、起業したいと考えていました。就職に向けて考えるのと同時にインターンシップの時期になり、商品企画業務のインターンシップを就職相談室に申し込みました。メガネの企画・デザインを行っている企業でのインターンシップが決まったことは最初は少し意外と感じましたが、希望した商品企画業務のみならず会社経営や運営の様子までを見ることができ、またメガネフレームやサングラスにすごく魅力を感じました。今はまだ小規模な企業ですが海外展開も始まり、将来の起業に向けていろいろな経験ができると感じ、卒業後にも社員として働きたいと思いました。とにかく経験してみるという姿勢で取り組んだインターンシップで、私の起業に向けた第一歩が始まりました。

勉強も、経験も無駄はない

韓国で学んだグラフィックデザインやBUNKAでのファッションや企画・プロデュースの勉強、インターンシップ、アルバイトの経験すべてに無駄は無く、将来の起業に役立つことと思っています。一見バラバラに見えるかもしれませんが、自分の中ではしっかりとつながっています。まずは内定先の(株)アトリエサンクでしっかりと経験を積み一人前になりたいと考えています。そして、将来は日本で起業し、韓国から家族を呼び寄せ一緒に暮らせるようにしたいと思います。

日本の高校生や留学生へのメッセージ

韓国の大学を目指している時には、入学したら何とかなる、大学に入れば新しい世界が開けると思っていました。でも自分が動かないと何も変わらない。何をしたいか、何ができるかを考えないと新しい世界は開けません。BUNKAに入学してからは、自分で動いて何でもやってみよう、勉強してみようと思い4年間を過ごしました。留学生も日本の高校生も大学で有意義な4年間を過ごすために、自ら動き新しい世界を切り開いてください。

文化学園大学で学び、希望の進路を実現した先輩の
“就職活動ストーリー”をご紹介します。



楠田 千尋 さん

現代文化学部 応用健康心理学科 4年

専修大学松戸高等学校出身

内定企業：株式会社ピアズ 総合職

事業内容：店舗コンサルティング・販売促進

進路変更のきっかけ

高校時代には大学で色彩学の勉強をしたいと思い、色彩に関係するファッション、建築、心理学の各分野を検討していました。心理学には興味がありましたが、当時の自分には難しそうだかと迷っていました。姉がBUNKAの建築・インテリア学科の卒業生で憧れもあり、迷った末に建築・インテリア学科に入学して卒業後には建築関係の仕事がしたいと思うようになりました。しかし、入学後2年経って建築やインテリアのアイデア発想やデザイン表現が苦手だと感じるようになりました。もう一度自分を見つめなおし、周囲ともよく相談のうえ、自分の適性に合うことを勉強したいと思い、色彩学への思いが変わっていませんでした。それらのことから、現代文化学部 応用健康心理学科に転科して、心理学の観点から色彩の勉強を続けることにしました。今考えると建築・インテリア学科の2年、応用健康心理学科の4年間はいろいろな経験や知識を身につけ、自分の未熟な面を成長させてくれた貴重な時間でした。

文化学園大学の学び

応用健康心理学科の学びの特長は、カウンセリングスキルを核にして、私のように色彩をテーマに心理学を学んだり、ファッションや健康的な日常生活のための心理学を学ぶ学生もいるところです。共通しているのはカウンセリングスキルを学ぶことによって、コミュニケーション力を身につけることだと思います。以前の私は自己主張が強く、人の話を聞くことが苦手でした。しかし、実践的なカウンセリングを実習で学ぶうちに、自分の考えを伝える・人の話を聞く・人の話を聞き出す・人の話のポイントをつかむといったことができるようになりました。カウンセリングスキルが身につく、少しずつ変わっていく私に対して、周囲の人が頼ってくれるようになった気がします。

自分の時間を有効に使う

応用健康心理学科では、カウンセリングの実習や学外でのボランティア活動など、実践的な授業が多くあります。また、私の場合は授業以外の時間を有効活用して、課題をこなすだけでなく学内でのクラブ活動に取り組み部長を務めたり、インターシップで他大学の意欲的な学生と交流する機会を得ることで、学内とは違った刺激も受けています。

就職相談室のサポート

応用健康心理学科の卒業生は幅広い分野へ就職しています。心理学を通じてコミュニケーションを深く学べるので、どんな分野でも活躍できるのだと思います。私も教育産業やIT業界と幅広く業界を考えながら就職活動を始めました。まずは企業説明会に参加して3～4社へアプローチを開始しました。この中にはベンチャー企業説明会で知った内定先の(株)ピアズも含まれています。説明会で(株)ピアズの企業トップの方とお話しする機会をいただき、携帯キャリア会社の店舗運営コンサルティングの事業内容に興味を持ちました。BUNKAで勉強したカウンセリングスキルを店舗運営やコンサルティングはもちろん、営業でも生かせると感じました。(株)ピアズを含めて2社に応募し、両社とも選考が進みましたが(株)ピアズから内定をいただき、もう一社は選考途中で辞退しました。今考えると学内だけではなく、積極的に他大学の学生とも接点を持つようにしていたので、情報交換によって刺激を受けて早めに就職活動をスタートできたのが良かったのだと思います。

文化学園大学でよかったこと

先生をはじめ、学生もみんな優しく、あったかいというのが一番です。先生が一人ひとりの学生に気をかけてくれるんです。他大学の友人の話の聞いていると、特に大規模な大学では、密なコミュニケーションをとるのは難しいようです。BUNKAでは、先生との距離が近く、気がついたら2時間も相談にのってくれていたことがありました。また、私がカラーコーディネーター検定を取得した時には、他学科の学生であることなど気にも留めない先生の手厚いサポートがとても印象的でした。こんなに面倒見のよい大学は少ないと思います。

文化学園大学短期大学部で学び、希望の進路を実現した先輩の“就職活動ストーリー”をご紹介します。



江田 さつき さん

短期大学部 服装学科[※]ファッションビジネスコース 2年

(※2016年度より「ファッション学科」に名称変更)

栃木県立鹿沼東高等学校出身

内定企業：株式会社レリアン 販売職

事業内容：婦人既製服の小売、バラの栽培・小売

文化学園大学を選んだ理由

BUNKAでファッションの勉強をしている今の私とは、少しイメージが違うかもしれませんが、高校まではスポーツに熱中していました。小中学校時代はフィールドホッケーをメインに活動し、陸上選手としても大会に出場、高校では陸上競技に専念しました。両親からは、将来は体育の先生になったらと言われてきましたが、高校3年生の時には、小さい頃から好きだったファッションの勉強がしたくて、栃木県内でファッションの勉強ができる学校を探しました。そんな時に参加した進学相談会で、将来県外に出てファッションの仕事をしたのなら、東京で勉強をしたほうがよいとアドバイスをもらいました。諦めていた東京への進学を両親に相談したら、東京の学校に行きなさいと言ってくれました。早く社会に出て仕事をしたかったので、服をつくるよりビジネスとしてファッションに関わる短大を中心に探しました。BUNKAのオープンキャンパスに参加して、短期大学部の“学生チームによるブランドビジネスモデルの構築”という授業を見学して、どうしてもBUNKAに入学して、自分もやってみたいと思いました。

ファッションのプロになる2年間の学び

服装学科の学びは、服作りの実習や市場調査、ブランドビジネスモデルの構築など学生が主体的に手や体を使って学ぶことを重視しています。授業を聞いているだけでは身につかないことも、自分で調べてまとめ、発表することで自然と知識が身につきました。普段の授業から先生や仲間である友人の前で、自分の考えをまとめてプレゼンテーションをして、質問にその場で答える。このような繰り返しで鍛えられたことから、就職活動の面接でもあまり緊張をしませんでした。BUNKAの実習を中心とした勉強は大変と感ずることもありましたが、いまががんばれば就職の時に役に立つと思いつながり取り組みました。

就職活動のスタート

就職活動のことが気になりだした頃、まだ就職活動で何をやるのかもわからないし、アパレル企業も好きなブランドの企業ぐらいいしか知らないような状況でした。私の性格から考えると就職活動を後回しにしてしまいそうになりましたが、友人が就職活動を始めたこと聞いて、よい意味で自分を焦らせて取り組むことにしました。まず大学内で行われる企業説明会に参加し、その際に内定先の(株)レリアンの話を聞かせてもらいました。当時は会社のことはよく知りませんでしたが、すごく素敵な担当者の方や会社の内容に魅力を感じました。アパレル業界で長く仕事をしたいので、若い人をターゲットにしたブランドは自分が年齢を重ねた時に、どのように向き合えばよいのかということを考えました。(株)レリアンは40代以降のミセスをターゲットにしていることから、年齢や経験を重ねることをプラスにしていける仕事だと思いました。最終的に(株)レリアンともう1社の選考が併行して進みましたが、最初に第一志望の(株)レリアンから内定をいただくことができ、就職活動を無事に終えることができました。

短期大学部でよかったこと

BUNKAの先生方は、ファッションの最前線での実務経験が豊富なので、他では聞けない経験談や実践的な知識を学ぶことができました。このような環境で日々実践的に学んだことが内定に結び付いたのだと思います。3年前のオープンキャンパスで、入学のきっかけとなった授業“学生チームによるブランドビジネスモデルの構築”の選抜チームにも選ばれました。いまは、チームが仮想で設立したアパレル企業の社長として企画、商品製作、プロモーションまですべてのビジネスモデルをまとめ、来年1月の発表会に向けて忙しい毎日を送っています。3年前にどうしてもやりたいと思ったその場所に、一生懸命の自分がいることがすごいと思います。